人相学的信念の背後にある素朴理論

○鈴木敦命¹・塚本早織²・高橋雄介³

(¹名古屋大学大学院情報学研究科・²愛知学院大学教養部・³京都大学白眉センター)

キーワード：顔にもとづく特性推論, 心理的本質主義, 公正世界信念

Naïve Theories Behind the Physiognomic Belief

Atsunobu SUZUKI¹, Saori TSUKAMOTO² and Yusuke TAKAHASHI³

(¹Graduate School of Informatics, Nagoya Univ., ²Division of Liberal Arts and Sciences, Aichi Gakuin Univ.,

³Hakubi Center for Advanced Research, Kyoto Univ.)

Key Words: face-based trait inference, psychological essentialism, belief in a just world

目 的

人間は、他者の顔からその人の性格や能力などの種々の特性を推論する傾向をもつ。近年の研究により、信頼性や支配性といった個別の特性の判断に影響を与える顔の構造的特徴が明らかになってきた[1]。一方、顔からあらゆる特性を判断できるという全般的な信念に関する研究は乏しい。ここでは、そうした信念を**人相学的信念** (physiognomic belief; 以下、人相信念) と呼ぶことにする。本研究の目的は、人相信念の背後にある素朴理論を調べることであった。特に、関連文献などから下記の予測を立てた。

予測 1 特性は固定的 (不変) であるという信念 (固定的特性観) が強いほど、人相信念も強い。

予測 2 特性は生物学的な素質にもとづいているという信念 (生物学的基盤信念) が強いほど、人相信念も強い。

予測 3 人はその人に値するものを与えられるものだという信念 (公正世界信念) が強いほど、人相信念も強い。

以上の予測を検証する調査を日本とアメリカで実施した。顔にもとづく特性判断は汎文化的な慣行であるため[2], 人相信念の背後にある素朴理論も文化普遍的であること、つまり、日米で共通の結果が得られることを期待した。

方 法

参加者 20代から40代の日本人 ($n = 896$) とアメリカ人 ($n = 500$) が調査に参加した。スクリーニング後の有効回答者数は日本人 770 名 (男性 372 名; 平均年齢 35.33 歳), アメリカ人 443 名 (男性 221 名; 白人 300 名; 平均年齢 34.80 歳) だった。

手続き 調査はウェブ上で実施した。調査に使用した主な尺度は以下のものであった。

人相学的信念尺度 (以下、人相信念尺度) 人相信念を記述した 14 個の文 (例: 「信頼できる人は顔を見ればわかる」) に自分の考えがどれくらい近いかを 4 件法で回答する尺度。

潜在的人格理論尺度[3] 固定的特性観を記述した 8 個の文 (例: 「誰もみな、何らかの特徴をもった人間であって、それを本当に変えることはあまりできない」) に自分の考えがどれくらい近いかを 6 件法で回答する尺度。

生物学的基盤信念尺度 人相信念尺度に含まれている 14 個の特性がどれくらい生物学的な素質にもとづいていると思うかを 4 件法で回答する尺度。

全般的公正世界信念尺度[4] 公正世界信念を記述した 7 個の文 (例: 「人は、その人に見合った賞罰を受けると思う」) に自分の考えがどれくらい近いかを 6 件法で回答する尺度。

結 果

O'Connor[5]の方法により、人相信念尺度の因子数を日米と

Table 1

Correlations between Average Scores of Each Measure

Measure	Upper: Japan, Lower: U.S.			
	1	2	3	4
1. Physiognomic Belief Scale	—	.014	.211	.381
2. Implicit Person Theory Measure	.185	—	.091	-.110
3. Belief in Biological Basis Scale	.374	.219	—	.168
4. Global Belief in a Just World Scale	.394	.121	.371	—

Note. All correlations are corrected for participant's age and gender, and significant correlations at the 5% level are in bold face. Cronbach's α for the Physiognomic Belief Scale was .92 and .91 in Japan and the U.S., respectively. The α 's for the other measures ranged from .75 to .94.

もに 1 に決定した。また、一因子構造を仮定した場合、同尺度の日本語版と英語版の間に計量不変性[6]が確認された。

各尺度の平均得点間の相関係数を Table 1 に示す。日米に共通して、人相信念は生物学的基盤信念および公正世界信念と有意に相関しており、予測 2・3 が支持された。一方、人相信念と固定的特性観の相関はアメリカ人だけで有意であり、予測 1 の支持は限定的なものであった。

考 察

本研究の結果から、人相信念の背後には次のような少なくとも 2 つの素朴理論があることが示唆される。(a)特性も顔と同様に生物学的構築物であるから、両者は関連している。(b)世界は公正な場所であるから、人はその人に見合った顔を賞罰として授けられる。人相信念と固定的特性観の関連については、後者の尺度に改善の余地が認められるため、さらなる検討が必要であろう。

引用文献

- [1] Todorov, A., et al. (2015). *Ann. Rev. Psychol.*, 66, 519-545.
- [2] Rule, N. O., et al. (2010). *J. Pers. Soc. Psychol.*, 98, 1-15.
- [3] Levy, S. R., et al. (1998). *J. Pers. Soc. Psychol.*, 74, 1421-1436.
- [4] Lipkus, I. (1991). *Pers. Individ. Diff.*, 12, 1171-1178.
- [5] O'Connor, B. P. (2000). *Behav. Res. Meth. Instr.*, 32, 396-402.
- [6] Raju, N. S., et al. (2002). *J. Appl. Psychol.*, 87, 517-529.

Correspondence to: atsuzuki@nagoya-u.jp (Atsunobu SUZUKI)